

2017年3月5日

## 福音書からのメッセージ

イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」  
(マタイによる福音書 4章 4節)

今日の福音書、舞台は荒れ野です。荒れ野というと、町中から離れた寂しいところです。岩がゴツゴツしていて、草木もまばらにしか生えていません。しかしここでは神さまに出会うことが出来ると考えられていました。

出エジプト記では、モーセに率いられたイスラエルの人々が 40 年間荒れ野をさまよいます。荒れ野で神さまは、雲の柱や火の柱を送って人々を導き、また天からマナという食べ物を与えて養われました。そこでは神さまを感じる事ができたのです。

その荒れ野に、イエス様は宣教を開始される直前に行かれました。40 日間断食をして、ただひたすら神さまと対話されます。わたしたちはこの 40 日間を思い浮かべた時に、げっそりとしたイエス様を想像するのではないのでしょうか。頬はこけ、生気がなくなったイエス様を思い浮かべるのです。

だからわたしたちはその姿に倣い、復活日までの 40 日間という大斎週の間、イエス様と同じように暗い顔をして過ごしていく。

しかし、荒れ野という場所で、これからいざ宣教に向かうというそのときに、イエス様は本当にそのような顔をしていたのでしょうか。

わたしは思います。決してそうではないと。荒れ野での 40 日間、イエス様は神さまと対話し、神さまのみ手によって養われたイエス様は、神さまのみ恵みにのみ包まれていたと思うのです。つまりイエス様の心は、神さまのお守りとお導きによって充



実していたというのが、40 日間の断食を終えたそのときだったと思います。

肉体は食物を得なければ、維持できない。これはわたしたち人間が考える常識です。しかし

イエス様は言われます。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と。

イエス様はこの箇所を通して、わたしたちも神さまの口から出る一つ一つの言葉に頼るようにと告げられます。たしかにパンも大事かもしれませんが。しかし神さまからの導きがないと、わたしたちは本当の意味で生きることができない。そのことをイエス様はわたしたちに教えておられるのです。

復活日までの 40 日間、わたしたちは神さまの恵みを感じながら、毎日を過ごしていきたいと思います。神さまのお恵み、それは神さまがわたしたちにイエス様を遣わしてくださった事です、そしてその大切な独り子を十字架へと向かわせたことです。そのことによって、わたしたちは神さまの前に立てるものとされました。

そのことに感謝しつつ、4月16日のイースターを、喜びをもって迎えることができればと思います。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>